

オウム対策住民協議会ニュース

烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

第9回リサイクルバザー ご協力ありがとうございました

4月11日、小雨の中、烏山地域オウム真理教対策住民協議会による、第9回リサイクルバザーがおこなわれました。事前に4回行われた、物品受付の時には延べ380人以上の人たちが訪れ、品物を寄付して下さいました。9回目ともなると、集まる品物も少なくなるのではと心配されました。が、そんな担当者の不安を吹き消すように、どんな品物が届き嬉しい悲鳴でした。そして当日、前日からの天気予報では完全に雨！外でやるべきか、中で広げようとかと、開始10時直前まではっきりしない状態でした。ぼつぼつお客さんが品定めに集まってきて、区民センター中と外の広場、両方に品物を並べました。沢山の皆さんの気持ちのこもった品々、売れ残ったらどうしようとの心配をよそに、いつも通り2時頃にはほぼ完売となり、雨の上だった空に感謝でした。毎年買物に来てく



写真は平成25年のリサイクルバザーです

残念そうに帰りました。いつも来てくれる外人さんは今年も沢山の買物をしてくださいました。皆さんからいただいた品物でバザー、売上は約60万になりました。このお金を元に私たち住民協議会は、今年も活動を続けていくことが出来ます。本当にありがとうございます。来年も沢山の協力よろしく願います。

れる男性は「去年は3時に来ても買物出来たのに、今年は2時半にきても買えなかつた。来年はもっと早くきます」とい

平成27年度 烏山地域オウム真理教対策住民協議会 総会開催

平成27年度烏山地域オウム真理教対策住民協議会総会が、4月23日烏山総合支所2階会議室にて開催された。

来賓として世田谷区から、秋山副区長が出席。住民協議会は、甲斐会長はじめ会員多数が出席した。総会は甲斐会長の開会挨拶、瀧澤実行委員長の議長で始まり、26年度事業・決算・監査の各報告が行なわれた。

事業報告では、今年1月に決定された、団体規制法存続・観察処分期間更新では、烏山地域の活動が大きな役割をはたした。オウム真理教の監視では365日の活動、年2回の抗議デモ・学習会、募金活動は一年で23回、ニュースは10回発行、リサイクルバザーの開催が報告された。

認され、平成27年度事業計画・予算案の提案へと議事が進められた。

事業計画では、これまでの各種活動の継続が決定され、監視活動の今後の方法について報告がされた。その後甲斐会長の退任に伴い、事務局長の古馬一行氏の会長就任、新事務局長に確井博子氏が決定した。



連載 オウム真理教と闘い続ける⑬ 古馬一行さんより

地下鉄サリン事件の当日、テレビでは朝から修羅場となった現場を中継していました。この放送を見ながら、これはオウム真理教の仕業だとすぐに思ったものです。それは江川紹子氏が週刊文春に3週連続で書いたオウム特集を読んでいたのでした。

それから5年経って12月の暮れにオウム真理教が烏山に入りました。町会の最後の役員会に区の職員が来て「アレフが入りました」と言ったので。私たちはオウム真理教がアレフに変わった事を知りませんでした。それを言われて町会は大騒ぎです。一つの町会がオウム問題に当たる事は余りに

もリスクが高いとの声もありました。しかし当該の町会が尻込みをしていますが事態は好転しません。

1月初めの決起集会には700人を集めて区民会館ホールで行いました。しかし3ヶ月もすると参加者はボロボロ減ってゆきます。それぞれ仕事も生活もあって仕方のない事です。4月に入ってようやく組織作りが出来、新しく人も入りうまくなり始めました。その時にこの活動の基本は監視だと決めたのです。そしてその結果を住民に広報する事。その時のメンバーがそのまま今も続いています。

15年は本当に長いと思えました。

監視活動は住民協議会活動の大きな力

平成13年に監視小屋が設置されてから14年目になります。ほぼ毎日、39もの地域団体の皆様の協力を得て、活動は試行錯誤をしながらも、今日に至っています。オウム真理教は凶悪なテロ集団であり、信者達が居住している施設での監視活動はかなり勇気が必要でした。しかし地域住民の皆さんが「オウム反対」の黄色いタスキを掛けて施設周辺で続けてきた活動は、オウム真理教に対して大きなプレッシャーになっていたはず。一時は130名余りのオウム信者が居住していましたが、最近ではひかりの輪の信者10名弱になりました。人数が減ったとはいえ、ひかりの輪の上祐代表は一連のテロ事件の時に中心に居た人物です。現在は脱麻原を掲げて活動していますが、私たちは到底信じる事は出来ません。最近、上祐代表は監視活動に対していろいろクレームをつけています。気になっているとすれば、これも監視活動の一つの成果だと受け止める事ができます。

長い年月が経ち当番に立って下さる住民の皆さんからは、もう必要ない、疲れた、いつまで続けるのかといった声も聞こえてきますが、この活動は地域住民の皆さんの協力が不可欠なのです。私達はオウム真理教の解散・解体をめざして、住民協議会活動を続けていかなければなりません。これからも皆さんのご協力、ご支援をお願いします。

毎日記入されている日誌より抜粋しました。

- ・警察の担当の方より、上祐氏は海外に行き留守。部屋には3人居るとの事、出入りもなく特に変わった様子も見られませんでした。(26・10・6)
- ・ビデオカメラやマイクを持った人達10数名が統々と右側の部屋を出て来て車に乗って去って行く。白いワイシャツを着た男性が右側の部屋を出て通路を散歩して戻っていった。テレビ等の報道関係者へのひかりの輪内部見学があり、夕方NHK等で放映された(26・10・15)
- ・2階西端より男性が出て来て外をしばらくながめた後、廊下通路を何度も往復していた。その間女性、男性が同じ部屋から出

- て来て、すぐ戻った。(26・10・25)
- ・公安・警察立入り検査。その他変化なし(26・11・6)
- ・警察の方から、今日は上祐を含めて2~3人しか居ない。いすに座って見ていられると上祐がきらいなので、寒さもあるから監視小屋からにしてほしいと言われた。公安の方からは最近上祐が住民にからんでくるとのことです。(26・11・19)
- ・主に部屋から部屋への移動を25回程度していた。荷物や封筒を運ぶ様子も見られた。(27・2・1)
- ・上祐がいるので、あまり近くにいない方が良いと公安の方が言うので小屋の方に居ました。特に変化はありませんでした。(27・2・4)
- ・マンション前、警察詰所周辺に6、7人の警察官とカメラマン2人、テレビカメラ2台が見られた。10時前に上祐が2階正面に向かって右の部屋から出て、左の部屋に入り、しばらくして元の部屋に戻った。今日は公安調査庁の立入り検査をしている為、テレビカメラが入って撮影していた。(27・2・5)
- ・40代男性2階の南側の部屋に入る。インターホン通話なしで直接暗証番号にて入った。荷物は黒の中ぐらゐのカバンを2個持っている。(27・2・23)
- ・毎日新聞のカメラマンが来て、私達が見まわりしている様子と監視小屋を写していました。(27・3・16)
- ・上祐氏がうろうろしながらこちらをにらんでいて恐かったです(27・3・17)
- ・公安の方には監視小屋での待機を勧められましたが、住民協議会の人には、なるべく出たり入ったりして監視してほしいとの事でしたので、その様にしました。(27・3・25)
- ・10時30分頃、上祐がマンション向かって右側の部屋から出て来て2階からケイタイで写真を撮る様子を写し、通路を2往復してから部屋に戻った。(27・3・28)

*監視の場所については、小屋の中に表示してありますので、当番の方は確認をお願いします。

高橋克也の裁判に思う 投稿

逃亡中も麻原の教本を肌身離すことなく麻原への帰依心を持ち続け、裁判では自らの犯行への反省はない。犯行とともに、長きにわたる逃亡は、どのような理由があろうと許されない。高橋からサリン被害者・家族への謝罪はなく、被害者の思いは、高橋の琴線に触れることはなかった。被害者へ思いを寄せる高橋克也の姿を想像することは間違いだったのか。その姿は麻原の意のままに動く20年前の一信者のままだった。「地下鉄サリン事件は運転手役で、サリンを撒くとは知らなかった」と証言し、法廷で麻原への帰依心を強調、マインドコントロールされた状態の犯行を主張する姿は、生への執着そのものだ。死刑囚・無期懲役囚信者の証言は、20年の歳月の隔たりを感じさ

せるもので、その記憶をまだらにし、証言内容の違いが際立った。そして今回もサリンの認識を巡る応酬で裁判は終わってしまった感拭えない。それにしても、世間を震撼させた事件でありながら、首謀者の麻原彰晃が法廷で突然意味も分からない言葉を吐き、その挙句一切口をつぐんでしまった責任は重い。裁判で事件の全体像は見えたと、教祖と信者の関係、宗教団体が教義を基に殺人に至った組織的な構造などは、裁判では解明されない。宗教関係者・作家・評論家などが、自らの考えを表したものはあるがそれだけでよいのか。高橋克也裁判の終結により、オウム真理教問題がマスコミから姿を消していく前兆にならなければ良いが。

住民協議会活動報告

- 4月16日(木) 実行委員会
- 4月23日(木) 住民協議会総会
- 4月27日(月) 協議会ニュース145号初校正
- 5月1日(金) 事務局会議

- 5月7日(木) 協議会ニュース145号再校正
- 5月9日(土) 第30回抗議デモ・学習会
- 5月15日(金) 協議会ニュース145号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。